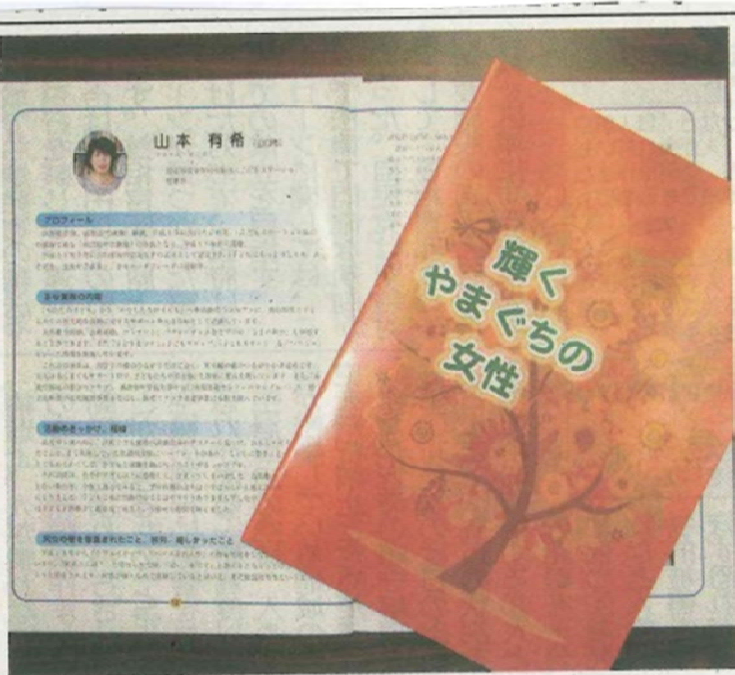


2015年6月12日

山口新聞に掲載



「輝くやまぐちの女性」冊子を発行  
山口きらめき財団

山口きらめき財団は、県内で活躍する女性たちを紹介した冊子「輝くやまぐちの女性」を2500部発行した。市町や関係団体などに配るほか、同財団の男女共同参画実践セミナーなどで活用する。

冊子はA4判46枚。地域活動や起業などの分野で活躍し、地域や経済活性化



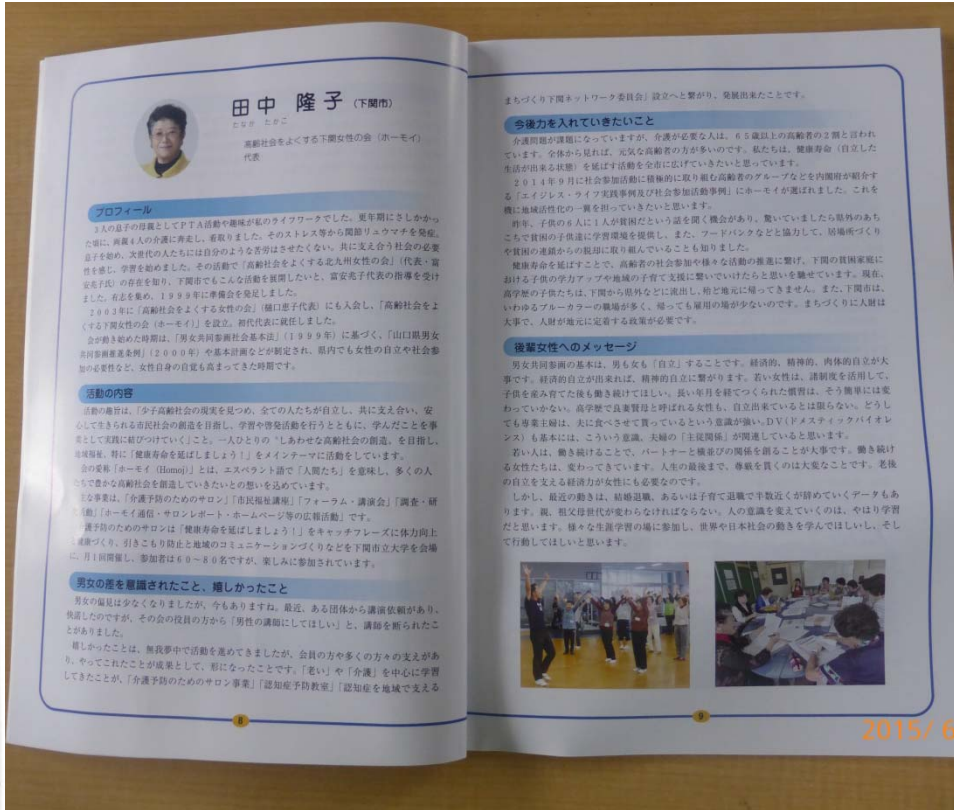
山口きらめき財団が発行した「輝くやまぐちの女性」に貢献している女性18人を取り上げている。プロフィールをはじめ、「活動のきっかけ、活動内容」「男女の差を意識したこと、苦労、うれしかったこと」「今後力を入れていきたいこと」「後に続く女性へのメッセージ」について、イ

ンタビュー形式で掲載している。

このうち、民放ディレクター、岩国市教育長を務めたNPO法人やまぐち男女共同参画会議顧問の磯野恭子さん（岩国市）は、中国残留婦人の永住帰国や女性の地位向上、男女共同参画

社会的推進などの活動を紹介。メッセージでは「女性として臆することなく、能力と専門性を発揮して地位を作っていくこと」との言葉を寄せている。

問い合わせは山口きらめき財団（☎0833・929・3600）へ。



**田中 隆子** (下関市)  
下関市 上中区  
高齢社会をよくなる下関女性の会（ホーモイ）代表

**プロフィール**  
3人の子どもの母としてPTA活動や地域のクイックワーカーでした。更年期にさしかかった際、両親の介護に奔走し、看取りました。そのストレス等から関節リウマチを発症。息子の母、文化財の人たちは自分のような苦労はさせたくない。共に支え合う社会の必要性を感じ、学習を始めました。その活動で「高齢社会をよくなる北九州女性の会」（代表・富安孝子）の存在を知り、下関市でもこんな活動を展開したいと、富安孝子代表の指導を受けました。有志を集め、1999年に準備会を発足しました。  
2003年に「高齢社会をよくなる女性の会」（山口県代表）にも入会し、「高齢社会をよくなる下関女性の会（ホーモイ）」を設立。市代表に就任しました。「山口県男女共同参画推進委員会」（男女共同参画社会推進法（1999年））に基づく、「山口県男女共同参画推進委員会」（2000年）や基本計画などが制定され、県内でも女性の自立や社会参加の必要性が、女性自身の自覚も高まった時期です。

**活動の内容**  
活動の趣旨は、「少子高齢化の現実を見つめ、全ての人が自立し、共に支え合い、安心して暮らせる市民社会の創造を目指す。学習や啓発活動を行うとともに、学んだことを実践に結びつけていくこと。一人ひとりの「しあわせな高齢社会の創造」を目指し、健康増進、特に「健康寿命を延ばしましょう！」をメインテーマに活動をしています。会の愛称「ホーモイ（Homo）」とは、エスペラント語で「人間たち」を意味し、多くの人たちで豊かな高齢社会を創造していきたいの思いを込めています。  
主な事業は、「介護予防のためのサロン」「市民講座」「フォーラム・講演会」「調査・研修」「セミナー講座」「サロネーデー」「ホームページ」等の広報活動です。  
親子のためのサロンの「健康寿命を延ばしましょう！」をキャッチフレーズに体力向上・運動づくり、引きこもり防止と地域コミュニケーションづくりなどを下関市立大学を会場に、月に1回開会し、参加者は60〜80名ですが、集しみに参加されています。

**男女の差を意識されたこと、嬉しかったこと**  
男女の意見は少なくなりましたが、今もあります。最近、ある団体から講演依頼があり、快諾したのですが、その会の役員の方から「男性の講演にしてほしい」と、講師を断られたことがありました。  
嬉しかったことは、無我夢中で活動を進めてきましたが、会員の方や多くの方々の支えがあり、やってこれたことが成果として、形になったことです。「若い」や「介護」を中心に学習してきたことが「介護予防のためのサロン事業」「認知症予防教室」「認知症を地域で支える

まちづくり下関ネットワーク委員会」設立へと繋がり、発展したことです。

**今後力を入れていきたいこと**  
今課題が課題になっていますが、介護が必要な人は、65歳以上の高齢者の2割と言われています。全体から見れば、元気な高齢者の方が多いです。私たちは、健康寿命（自立した生活が出来る状態）を延ばす活動を全市に広げたいと思っています。  
2014年9月に社会参加活動に積極的に取り組む高齢者のグループなどを内閣府が紹介する「エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」にホーモイが選ばれました。これを機に地域活性化の一環としていきたいと思っています。  
青年、子供の8人に1人が貧困だという話を聞く機会があり、驚いていましたら形外のあちこちで貧困の子供達に学習環境を提供し、また、フードバンクなどと協力して、居場所づくりや貧困の連鎖からの脱却に取り組んでいることも知りました。  
健康寿命を延ばすことで、高齢者の社会参加や様々な活動の推進に繋がります。下関の貧困家庭における子供の学力アップや地域の子育て支援に繋いでいけたらと思います。また、下関には、高学歴の子供たちは、下関から県外などに流出し、殆ど地元に戻ってきません。また、下関には、いわゆるブルーカラーの職場が多く、帰っても雇用の場が少ないです。まちづくりに人間は大事で、人材が地元で定着する政策が必要です。

**後輩女性へのメッセージ**  
男女共同参画の基本は、男女も「自立」することです。経済的、精神的、肉体的自立が大事です。経済的自立が出来れば、精神的自立に繋がります。若い女性は、講義を活用して、子供を産み育てた後も働き続けてほしい。長い年月を経てつづられた慣習は、そう簡単には変わらない。高学歴で良妻賢母と呼ばれる女性も、自立出来るとは限らない。どうしても専業主婦は、夫に食わせて貰っているという意識が強い。DV（ドメスティックバイオレンス）も基本には、こういう意識、夫婦の「主従関係」が関連していると思います。  
若い人は、働き続けることで、パートナーと働き方の関係を描くことが大事です。働き続ける女性たちは、変わってきています。人生の最後までも、専業主婦のことは大変です。老後の自立を支える経済力が女性にも必要なのです。  
しかし、規定の働き方は、結婚退職、あるいは子育て退職で年収近くが下がっていくデータもあります。眞、親世代世代変化から受けられない。人の意識を変えていくのは、やはり学習だと思います。様々な生涯学習の場に参加し、世界や日本社会の動きを学んでほしい、そして行動してほしいと思います。

2015/6/13